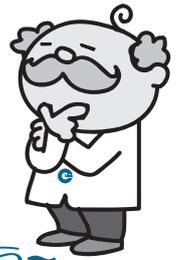


こんにちは!

村立東海病院です



「甲状腺機能低下症」のお話

～不調が続くときは、年齢や忙しさのせいにならず、早めに受診しましょう～

■なんとなく不調、それは年齢のせいだけではないかもしれません

「疲れやすい」「体重が増えた」「寒がりになった」「気分が落ち込みやすい」——。こうした症状を、年齢や更年期、忙しさのせいだと思っていないですか。実はその背景に、甲状腺の病気が隠れていることがあります。

■甲状腺とはどんな臓器？

甲状腺は首の前側にある小さな臓器で、体の代謝を調節する甲状腺ホルモンを分泌しています。このホルモンは、体温、心拍、消化、精神活動など、全身の働きを支えています。



■甲状腺機能低下症とは？

甲状腺機能低下症とは、甲状腺ホルモンが不足した状態です。代表的な原因は「橋本病」と呼ばれる自己免疫の病気で、特に中高年の女性に多くみられます。甲状腺機能低下症の患者数は、潜在性も含めると、日本の人口の3.3～6.1パーセントにも上るといわれています。これは、東海村の人口で考えると2,000人前後です。

■見逃されやすい症状

症状はゆっくり進行するため、気付かれにくいのが特徴です。むくみ、便秘、皮膚の乾燥、抜け毛、集中力低下、月経異常なども起こることがあります。加えて、治療が行われないでいると、心血管リスクの上昇や悪玉コレステロールの上昇、重症例では肝機能異常や意識障害を来すことがあります。



■検査や治療方法は？

血液検査、超音波検査で診断が可能です。治療は不足しているホルモンを内服で補う方法が基本で、多くの場合症状は改善し、普段通りの生活が送れます。

■早めの受診が大切です！

甲状腺機能低下症は、早期発見・早期治療がとても大切な病気です。不調が続くときは、「年齢のせい」「忙しさのせい」と決め付けず、早めに受診しましょう。当院でも診断・治療することが可能です。

村立東海病院内科医 高島 佑典

【問い合わせ】村立東海病院 (☎282-2188)、地域福祉課地域福祉・地域医療推進担当 (☎282-1711 内線1132)